

コナガ、オオタバコガによる農作物の 被害に注意！

岡山県農業研究所（赤磐市）に設置しているフェロモントラップにおいて、5月の1か月間のコナガの誘殺数は、199頭で平年（68.3頭）より多くなっています。また、同期間のオオタバコガの誘殺数も、71頭で平年（2.3頭）より多くなっています。

広島地方気象台が5月29日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並から高く、降水量は少ないとされており、発生を助長する条件となっています。現時点で本虫の発生を認めていない地域でも、注意してください。

本虫の加害作物（下記2、3参照）を栽培しているほ場では注意深く観察し、発生を確認した場合は速やかに防除を行ってください。

＜防除対策及び防除上の参考事項＞

- 1 早期発見に努め、初期防除を心がける。
- 2 コナガは、キャベツ、ダイコン、ハクサイ、チンゲンサイなどのアブラナ科野菜に被害を及ぼす。若齢幼虫は小さいため見落としやすい。ほ場に入り、細く小さい蛾が活発に飛び回っている場合はコナガである可能性が高いため注意深く観察する。
- 3 オオタバコガは、広食性で、ピーマン、ナス、トマト、レタス、イチゴ、キャベツ、ゴマ、大豆、各種花などに被害を及ぼす。若齢幼虫は新芽や花蕾に侵入して加害する。若齢幼虫によって開けられた食害痕、しおれた花蕾や茎葉、微細な虫糞を手掛かりに幼虫を探し、見つけ次第捕殺する。
- 4 摘心、摘花した腋芽や収穫後の残渣などは発生源となるため、ほ場に放置せず速やかに処理する。
- 5 作物によって登録のある薬剤が異なるため、使用に当たってはラベルをよく読んで登録の有無や収穫前日数、使用回数など使用基準を遵守する。また、両種は薬剤抵抗性の発達のおそれがあるため、同一系統薬剤の連用を避ける。



写真1 コナガ成虫
(体長約1cm)



写真2 コナガ幼虫 (体長0.7~0.8cm)
による食害の様子



写真3 オオタバコガ幼虫
(老熟幼虫は体長約3.5cm)



写真4 オオタバコガ幼虫による
トマトの食害痕

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

